

## 2012年度 部落問題学習研究委員会 まとめ

### I. はじめに

昨年度、本研究委員会は6本の「歴史学習をおこなわない高校での部落問題学習指導案」を提示した。これは「高校の部落問題学習は、歴史学習ではなく、現状認識から出発する必要がある」と一昨年度の提起に基づいて作成したものである。

本年度は「いかに部落問題学習を行うべきか」という大きなテーマをひきつぎながら、部落史研究の現状、宗教者と部落問題、前近代の被差別部落のネットワーク等について研修することで、「部落問題学習の切り口とテーマを考える」という主題をもって研究をすすめた。

### II. とりくみの経過

第1回 5月25日 橿原市中央公民館

研究協議：テーマの再確認のため、『部落差別をどう教えるか？』（2011年度研究実践レポート）と『高校での部落問題学習指導案』（2012年度研究実践レポート）、および、同和問題関係史料センター『研究紀要第17号』（2012年3月）の井岡康時論文の読み合わせ。

第2回 6月22日 奈良県同和問題関係史料センター

研修：『戦間・戦時体制期の部落問題についての理解を深めるために』

講師：井岡康時さん（奈良県同和問題関係史料センター所長）

同和問題関係史料センター常設展示見学。

研究協議：午前中の研修を通じての意見交流。

『宗教と部落問題 改訂版』（2010年 奈良人権・部落解放研究所）の第一講読み合わせ。

第3回 9月21日 桜井市中央公民館

研修：『宗教者と人権問題の取り組みについて』

講師：差別をなくす奈良県宗教者連帯会議事務局長丸子孝仁さん（曹洞宗平等寺副住職）

研究協議：「宗教と部落問題」について研究協議。京都部落問題研究資料センター通信第12号読み合わせ

第4回 10月26日 橿原市中央公民館

研究協議：「総括案および研究レポート」の検討。「若き教師に贈る部落問題事例集（仮題）」について。「中世京都案内」読み合わせ。「神道の系譜」について研究協議。

第5回 11月9日 ツラッティ千本・京都市内・柳原銀行記念資料館

研修：ツラッティ千本（楽只地区）と柳原銀行記念資料館（崇仁地区）常設展示見学。

および楽只地区・崇仁地区・東九条周辺フィールドワーク。

研究協議：京都市内の被差別部落の概要と「近代・前近代の被差別部落のネットワーク」について。

第6回 1月11日 橿原市中央公民館

研究協議：「総括案および研究レポートの検討」。

### III. 研修・協議のまとめと今後の課題

1. 第二次大戦後の同和对策事業は、戦前の融和事業の延長線上にあるのではないかと、という指摘が近年の部落史研究者の間でなされている事情について、研修を深めた。これは近現代史の大きな見直しの流れに沿うものである。

2. 「部落問題と表裏の関係にある」といわれる天皇制の問題を研究する前に、宗教者団体の近年の取り組みに学んだ。仏教が「部落差別の理論づけ」に一役買っていることを知るとともに、神道についてその経緯を学習した。

3. 奈良県ではあまり見られない「都市部落」のようすを知るために京都市内の二つの被差別部落を訪問し、地域の歴史と現状について研修を深めた。これは、京都市街地にある旧「天部村」が山城・摂津・近江などの被差別部落を統率していたという伝承を確かめるためであるが、大和同志会・全国水平社のできるはるか以前に「被差別部落のネットワーク」があったのではないかと問題意識に基づくものであった。

4. 「部落差別の現状について」を付記する。新採用教員も増えて教員の年齢構成も若返ってきたことから、来年度は「若き教員のための部落問題Q&A」（仮称）を作成する予定である。